

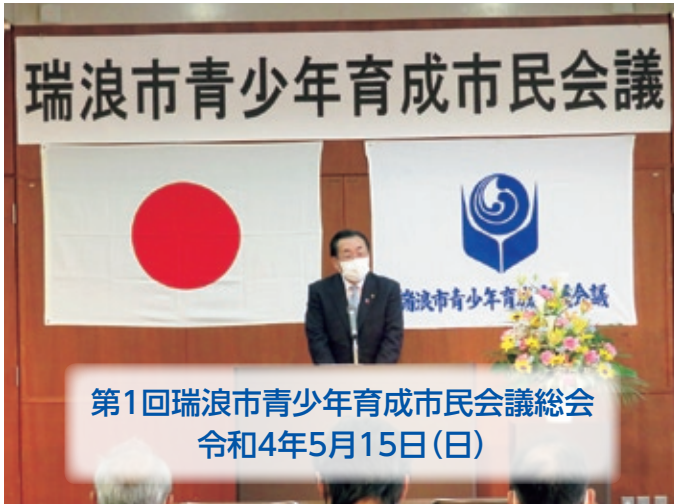


瑞浪市青少年育成市民会議だより 第19号

笑顔あふれるみずなみ

『みとめて ほめて はげまして』 みんなの力で健やかに

〔発行〕 瑞浪市青少年育成市民会議 〔編集〕 市民会議専門部会 広報部会



第1回瑞浪市青少年育成市民会議総会
令和4年5月15日(日)



日吉町民会議 (モデル地区指定)
「活躍を期待しています」



家田 莊子氏 (作家) による講演
『子育てには、親育て ～家庭、学校、社会の現場から～』

青少年育成市民会議総会で作家の家田莊子氏による講演「子育てには、親育て」を聴きました。長年取材した少年院やDV・ひきこもり・摂食障害などを経験した子どもたちの生の声をもとに、親としての在り方、子どもとの接し方についてお話をいただきました。感想の一部を紹介します。

- ・ 子どもたちの現実、実際の姿、真実が伝わる内容で、子どもたちの叫びにも似たものを突き付けられた気がしました。
- ・ 取材をもとにリアリティのある話がよかったです。会話のタイミングは親ではなく、子どものタイミングを見逃さないことが大切だと思いました。
- ・ 親子のすれ違いは会話レスから、子どもの「大丈夫」という言葉に安心してはいけない、大人が気付いてあげないといけない、など参考になることが多くありました。
- ・ 「暴力を受けても大好きだった」という少女の言葉に衝撃を感じました。幼い頃から家族の暴力を受けることが、子どもの成長に与える大きさが改めて分かりました。また、子どもの話を親がきちんと聞いてあげることが、子どもへ愛情を伝えるために必要不可欠だと思いました。
- ・ 「挨拶、聞く耳をもつこと、自分の視点を相手に移すこと、が大切であることに気付かせていただけました。挨拶ができる町をつくりたい！」
- ・ 子どもたちの気持ちに気付ける家庭、社会になるように心がけたいと思いました。そのためにも、より挨拶の意味を考えながら広めていきたいと思いました。

瑞浪市主張大会

令和4年6月12日(日)

出場者氏名

小学生の部

◎藤田 紘成 稲津小6年

『ぼく達がつくる 瑞浪市の未来』

◎柴田 一牙 明世小6年

◎溝口 希歩 釜戸小6年

◎渡邊 珂子 日吉小6年

◎鈴木 陽菜 瑞浪小6年

◎水野 来海 土岐小6年

◎長谷川友里 陶小6年

中学生の部

◎恩田 民緒 瑞浪南中3年

『共に生きるために』

◎成瀬 葵 瑞浪中3年

◎勝川さくら 瑞浪北中3年

◎山川 花純 麗澤瑞浪中3年

高校生の部

◎中村 響力 麗澤瑞浪高2年

『自分の意見を発信する』

◎高橋 亜弥 瑞浪高2年

◎森元 美波 中京高3年

一般の部

◎大石 有紀

◎最優秀賞

「」題名

◎優秀賞

「共に生きるために」 恩田 民緒 さん (瑞浪南中学校3年)

皆さんは、「外来種」とは何か知っていますか。外来種とは、人間の手によってもともと生息していた場所から別の場所に移された生き物のことです。その中でも特に外国から来た生き物を「外来生物」と言います。そして近年この「外来種・外来生物」が問題になっているのです。

ニュースなどで、「外来種が日本の生態系に危害を加えている」など放送されているのを見たことはありませんか。だから、「外来種は嫌い。よくない。」あるいは、「どうでもいいや。」「自分には関係ないから知らない。」そう思っていないですか。

僕の趣味は釣りです。外来生物の一つであるオオクチバスを釣って楽しむこともあります。しかしある日、こんなことを言われました。「バス釣りなんて、していいの？外来生物でしょ。」と。本来ならば大好きで、楽しいはずの釣りですが、本当に楽しんでもいいのだろうか…という不安な気持ちになりました。

また僕が以前、土岐川観察館の活動に参加した時のことです。網を使って魚を捕らえ、外来種が入っていたら駆除をする、そのような活動をしていました。その時ふと、「なぜ外来生物を駆除しなければいけないのだろう。」僕はそう思いました。駆除する理由は分かります。在来種と呼ばれる昔から日本にいる生き物を守るためです。でも、外来種を放ったのは僕たち人間です。なのにどうして駆除しなければいけないのだろう…僕には疑問でした。

そこで僕は調べました。調べていく中で、出した結論は、外来種・在来種関係なく、僕たちが管理し守っていくことが大切だということです。

僕は総合の授業で、瑞浪市の河川について調べました。その中で、河川の水質と住んでいる魚には密接な関係があることがわかりました。例えば外来生物の代表であるアメリカザリガニ。この生き物は汚れている水質を好むそうです。僕の通学路には川が流れています。その川は昔、カワセミが住むほどきれいでした。しかし今では、ゴミが見られ、汚い川になっています。アメリカザリガニもたくさん住んでいます。本当に在来種を大切にしたいのであれば、まず僕たちが昔のような美しい川にすればよいのです。僕はこのことをきっかけに、川の清掃ボランティアを行うことにしました。外来生物を駆除するのではなく、在来種の住める川をつくりたいと思ったからです。川を見ていると、水が濁っていて、ゴミがたくさん浮いていました。外来生物を駆除する前に、外来生物が住みやすい環境にしていけないか考える必要があります。そして、こうした意識をもつ人を増やすことが、まず大切なのだと感じました。

生き物たちの境遇は、僕たち人間によって左右されます。だからまず僕たちが、この地域の自然をどうしていきたいのか、考える。そうした姿勢が大切です。

僕は、生き物の命を守りたい。僕は、生き物の住処を守りたい。

僕が住む瑞浪市、岐阜県、そして日本。僕たちと生き物たちが共に生きていくために、皆さんでまず地域のことを知り、考え、意見をもってみませんか。僕と一緒に。



瑞浪市最優秀賞

【中学生の部】

【小学生の部】

藤田 紘成さん (稲津小学校)



- ・自分の思いを堂々と自信をもって伝える姿に感動しました。心が温まりました。素晴らしい大会でした。
- ・大人より子どもたちの方がよく考えていると教えてくれました。大人が思っている以上に子どもらは賢い。
- ・小学生の子はまだ12年しか人生経験がない中、このように堂々と主張ができ、とても度胸があると驚きました。主張を聞くことができ本当に感激し、感謝し、新しい発見ができました。瑞浪市内にこのような児童が増えることを願っています。
- ・小学生でもとてもレベルの高い発表でした。市長のお話の中にあつたように、若者たちの思っていることを知るよい機会となりました。

- ・小・中・高校生の今考えていることを知ることができたのがよかったです。それぞれに疑問に思うことがあり、解決策などを真剣に考え、堂々と発表していて力強さを感じました。
- ・それぞれのテーマに取り組んで素晴らしい発表でした。(特に高校生)
- ・様々な世代の方の主張が自分自身の思いとも重なる部分があったり、新たな気付きを与えてくれたりと、心に残るものが多くありました。
- ・若い人たちが自分を大切に、地域・瑞浪市を大切に、大好きだということがよくわかってうれしかった。
- ・高校生ボランティアの司会進行は声の大きさや聞き取りやすいスピード、テンポもよく、そしてハキハキとしていて、大人顔負けのとても素晴らしいものでした。温かい雰囲気になりました。

【高校生の部】

中村 響力さん (麗澤瑞浪高校)



【一般の部】

大石 有紀さん



6月12日瑞浪市総合文化センター講堂にて、第43回瑞浪市主張大会が開催されました。今回は小学生の部7名・中学生の部4名・高校生の部3名・一般の部1名計15名の方が発表されました。小学生から一般まで揃う主張大会は、令和元年度以来3年ぶりのことです。参観の方も、学校関係者・発表者のご家族・瑞浪市市民の方など講堂がほぼ満席になるような盛況ぶりでした。

今回の主張は、瑞浪市の未来・共に生きるため・援助希求力などがテーマとなっていました。年齢を超え、それぞれの意見を傾聴することで、自らを振り返ったり将来を考察したりすることができる素晴らしい場となりました。このような異年齢交流が、将来地域を支え、地域の力となっていくと確信することができました。

岐阜県青少年育成推進指導員 曾我 順一

「学校給食を活用した食育の推進」

女子栄養大学名誉教授 金田 雅代氏

瑞浪市 PTA 連合会会員と青少年育成市民会議構成員（家庭地域教育事業部会員）を対象とした教育講演会を7月21日（木）に総合文化センターにて開催しました。

当初は「子どもたちの明るい未来について語り合おう」「コロナ禍で傷ついた教育について考える」ということで、講演会に続いて懇談会も予定していましたが、コロナの感染が広がりつつあったため、懇談会を中止して講演会のみで開催となりました。

講師の金田雅代氏は、岐阜県多治見市の栄養士・管理栄養士として30年務められた方で、その実績を買われて文部科学省の学校給食調査官を10年、2005年からは女子栄養大短大教授として栄養教諭の養成にあたり、学校給食の「生き字引」と言われる先生です。

「食育」や「地産地消」といった言葉が広まる前の70～80年代から、多治見市では岐阜県内でとれた米や県の魚であるアユを給食に出したり、食器をプラスチック製から地元名産の陶磁器に変えたりしてみえました。87年からは、栄養バランスを考えて自分で主食と主菜、副菜を選ぶ能力を身につけさせるため、バイキング形式の給食を導入、「食育」を先駆けて実践され、子どもたちに食生活の大切さを指導してられました。



講演を聴かれた方々からの感想

青少年育成推進員（大湫町）向井 一峰

講演を聴いて特に印象に残ったことが2点あります。

学童期の学校給食は、子どもたちの食習慣の確立のためにとっても重要であるということです。健やかな人生を長く送っていくための食事についての基礎が、幼児期・小学生・中学生の約11年の間に形成されていくのです。学校給食は家庭での食習慣の教科書です。家庭での食事の場でも学校給食を話題にすることはとても大事なことです。

また、食育としての学校給食を考える上で、地域に伝統的に伝わった料理を大事にし、地元でとれた食材をなるべく多く取り入れることが必要です。自分が育った故郷に対する郷土愛。顔の見える生産者への親しみと尊敬の気持ち。自然・天候への畏敬の念。さらには地場の作物生産にかかわり、あるいはそれを消費することで、食物への知識と信頼が生まれ、自らが地域に貢献している自覚をもつことができるのです。

改めて、学校給食の食育としての重要性を感じました。

出席された方々からも多くの感想をいただきましたので、一部を紹介します。

- ・給食のありがたさがよく分かりました。栄養（塩分、野菜）、地場産物、和食など、給食には意図と計画があることに気付くことができました。子どもには親の食生活や健康問題が影響するという話にドキリとしました。学校給食のようにとまではいきませんが、自分が食事を作る時くらいは、見本となるものを出したいと思えました。学童期の食べ方は、一生につながることも知ることができたので、子どもの健やかな成長につながっていく食育をしていきたいと思いました。
- ・お話を伺い一番の目標は、子どもが大人になった時に自分で望ましく適切な食生活を送っていけるようにすることだと思いました。そのために今できることは何かと考えると、1つ目は食塩量等の自身の食生活を見直すこと。2つ目は学校給食を参考に、家庭でも様々な食材を取り入れ、バランスの良い食事を心がけること。また無理のない程度で、伝統料理等も取り入れる。学校給食が担う役割がとても大きいことが分かったので、それだけに頼らず家庭でも続けることができる範囲で同じように連携していきたいと思いました。我が子には、将来自分で望ましい食生活を送れるようになってほしいと願うので、そのために今やれることをやってみようと思いました。
- ・「給食は実物教材であり、実践につながりやすい」という言葉が心に残りました。お昼の放送で、栄養職員さんが作成した献立原稿を読むのが教頭の担当でした。当初は、ただ原稿を読んでいるだけでしたが、子どもたちの反応が楽しくてクイズ形式にしたり、情報を加えたりしてみました。今思えば、もっと食育を意識したり、実践意欲につなげたりできるチャンスを生かせたのかなと反省しています。自分の健康は自分で守れる、そんな子どもに育てたいと思えます。

「夏季特別街頭指導」(7/15~9/9)を実施して

青少年育成推進員(稲津町) 和田 建司

毎年、瑞浪市青少年育成市民会議では少年センター指導員の皆さんの協力を得て、学校が夏休みになる前後の7~9月の間、「夏季特別街頭指導」として瑞浪駅からパロー瑞浪中央店近辺の夜間巡回をしています。

この日は、夕方になっても蒸し暑さが残るなか、環境改善事業部会員と少年センター指導員の皆さんと、中央公民館に集合してゴミ拾いをしながら、歩いている子どもたちへの声かけ、安全指導を目的とした街頭巡回指導を約1時間行いました。

小・中学校の終業式が行われた日だったので、多少の学生たちが出歩いていることを予想していましたが、全くと言っていいほど学生の姿を見かけませんでした。ゴミもたばこの吸い殻が少し落ちていた程度で、目立つようなゴミもありませんでした。少年センター指導員の方々ははじめ、青少年育成に携わられている方々が



こうした活動を長年続けていただけてきた成果だと改めて強く感じました。

巡回で、一つ気になったことがありました。駅横の駐輪場で電車から降りてきた3人の方に挨拶をしましたが、3人とも無言で自転車に乗って行かれました。その人たちの耳にはイヤホンが…。普通なら聞こえるはずの音が聞こえない。時代とは言え、これでは背後からの物音にも気付けないのではと少し危険性を感じました。

こうした危険性に気付ける機会をもてるのもこの活動の意義であり、地道な活動ではありますが、今後も長く続けていくことが大切だと感じました。

ご存じですか? 「青少年の非行・被害防止全国強調月間」

内閣府と県・市が、7月を「青少年の非行・被害防止全国強調月間」、11月を「子ども・若者育成支援強調月間」として、全国的に啓発活動を展開していることをご存じですか。

我が国における少子高齢化、インターネットの利用拡大等の進展は、青少年を取り巻く環境にも大きな影響を及ぼしています。

青少年の非行情勢については、令和3年の刑法犯少年の検挙人員は戦後最少を更新したものの、人口比では成人と比べ依然高い水準にあります。我が国における成年年齢が18歳に引き下げられるとともに、18歳及び19歳の少年について特例を定めた改正少年法が施行されましたが、引き続き18歳以上の少年を含めた少年の健全育成及び非行防止のため、関係府省庁、関係諸機関・団体等が有機的に連携しつつ、非行防止活動に積極的に取り組まなければなりません。

青少年の被害の現状については、スマートフォンやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を始めとする新たな機器・サービスが急速に普及し、青少年を取り巻くインターネット利用環境が一層多様化する中、SNSに起因する事犯の被害児童数は、高い水準で推移するなど、子どもの犯罪被害は深刻な状況にあります。また、新型コロナウイルス感染防止のための「新しい生活様式」の定着に伴い、子どもが自宅でインターネットを利用する時間が増え、不適切な受発信により、犯罪やトラブルに巻き込まれる機会の増加も懸念されています。

次代を担う青少年の育成は、社会全体で一体的に取り組むべき課題です。このため、7月を「青少年の非行・被害防止全国強調月間」とし、青少年の非行・被害の防止について国民の理解を深めるとともに、関係機関・団体と地域住民等とが相互に協力・連携して、インターネット利用に係る子どもの被害の防止、有害環境への適切な対応等の取組を集中的に実施する期間としています。瑞浪市では、大型商業施設と各地区夏祭り会場で啓発チラシやポケットティッシュなどを配布しながら、啓発活動を行ってきています。

11月の「子ども・若者育成支援強調月間」は、文化祭会場での啓発活動を計画しています。

瑞浪市青少年育成市民会議の構成団体は、以下の諸団体です。

- *市議会 *教育委員会 *各地区町民会議 *社会教育委員会 *連合自治会 *市小中学校校長会
- *市幼稚園園長会 *瑞浪高等学校 *中京高等学校 *麗澤瑞浪中学・高等学校 *中京学院大学
- *市PTA連合会 *市子ども会連合会 *市スポーツ少年団 *市民生委員・児童委員協議会
- *東濃西部少年センター *社会福祉協議会 *瑞浪保護区保護司会 *多治見警察署瑞浪警部交番
- *瑞浪ロータリークラブ *瑞浪ライオンズクラブ *瑞浪桔梗ライオンズクラブ *瑞浪青年会議所

瑞浪市青少年育成市民会議本部

会長 水野 光二 (瑞浪市長)

★理事代表 ☆理事副代表

曾我 順一	県指導員 小本曾正尚	桑原 義孝	中根 圭一	和田 建司	岩島 辰也	向井 一峰	☆旗 秀樹	☆堀部 睦美	☆溝口 弥	★萩尾 英明	市推進員	理事 鈴木 圭子	柴田 洋子	可児 恵太	羽柴 誠	顧問 加納 素介	水野 勝人	監事 成重 隆志	熊谷 隆男	伊藤 慶和	勝 康弘	副会長

強調月間啓発活動 (7月・11月)

専門部会

【事業部会】

家庭地域教育事業

- ◎溝口 弥
- ◇「高校生と語る会」
- ◇「教育講演・懇談会」
- 向井 一峰
- 大久保京子
- 小本曾 誠
- 堀部 なを
- 水野 大輔
- 松井 廉
- 丸山 和宏
- 石川 哲也
- 塚本 拓也
- 河口 志乃
- 大脇 恭子
- 藤元 理江
- 河口 敦子
- 安田善一朗
- 安藤 昇
- 水野 勝人
- 湯原 定雄
- 小栗 丈人
- 中澤 正孝
- 木村 伸哉
- 岩島留美子
- 加藤 誠二
- 廣瀬浩一郎

環境改善事業

- ◎堀部 睦美
- ◇「夏季特別街頭指導」
- ◇「清掃ボランティア」
- 和田 建司
- 小倉 弘次
- 小川 正人
- 三宅 滋郎
- 安田 貴彦
- 青木 彩人
- 細川由加里
- 足立妃都美
- 石田 和生
- 伊藤 孝一
- 比留間 孝
- 小司 隆信
- 溝口 博士
- 高嶋 剛
- 加納 大輝
- 武田 真優
- 曾我 順一
- 岩島 辰也
- 中根 圭一
- 桑原 義孝
- 小本曾正尚

【広報部会】

- ◎旗 秀樹
- ◇「市民会議だより」
- 萩尾 英明
- 水野 正
- 加納 素介
- 渡邊 啓介
- 早瀬 徹

- 【 】部会
- ◎部会長
- ◇主な活動
- 副部会長

今後の主な年間活動予定

- ・11月『子ども・若者育成支援強調月間』啓発活動
※各地区文化祭会場にて、啓発グッズを配布する活動を行います。
- ・12月17日(土) 清掃ボランティア活動(仮)
- ・1月20日(金) 第2回専門部会
- ・2月4日(土) 第2回青少年育成市民会議総会
(表彰・モデル地区発表)
- ・2月12日(日) 中央公民館啓発活動

編集後記

本年度も新型コロナウイルスの感染防止の観点から、状況をみながら年間の活動予定を変更・中止する場合があります。

今後も市民の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

瑞浪市青少年育成市民会議 広報部会
総合文化センター TEL 68-5281